

保健予防費に関する評価結果の概要

部課名	保健所 保健予防課	事業名	保健予防費	トピックス	食育の推進
総合評価	一部改善すべき	評価コメント	・市民の健康を支えるという意味で、大変意義深く、内容としても評価ができる。 ・実施方法や周知方法は、ターゲットごとに訴求できる方法を検討してほしい。		

改善プログラムにつながる意見

【議論のポイント1】 効果的な周知・啓発 方法について	コーディネーターによる まとめ	とてもよい取り組みをしているのにもかかわらず、市の事業を知らない人が多いように感じるため、食事の大切さをSNS等で発信するなど、積極的な普及啓発をしてほしい。
	評価人チーム意見	・対象者によって、周知方法や啓発内容を使い分けるとよいと思う。 ・まち☆ベジーズを活用した四コマ漫画などで、食育に関する普及啓発をすると親しみやすさを感じる。 ・SNSを活用するうえでは、表紙の工夫や、市民参加型のレシピコンテストを開催してはどうか。 ・学校や学生等と連携し、若い世代の視点を取り入れた周知を行うとよいのではないかな。
【議論のポイント2】 若者・無関心層に 向けた効果的な 推進方法について	コーディネーターによる まとめ	若者や無関心層に対して、健全な食生活への行動変容を促すためには、民間企業や大学、他部署等との連携を含め、「食体験」を充実させる必要があるのではないかな。
	評価人チーム意見	・朝食をとらないのは時間がないことも理由の一つなので、おにぎりのような手軽でバランスの取れたレシピを周知するとよいと思う。 ・若者の食育を推進するにあたっては、まちだすいとんを高校・大学の文化祭や学食で提供することや、地元スーパーに保護者向けのレシピを設置するなど、学校や民間企業と連携すると効果的だと思う。 ・無関心層に対しては、流行りのドラマとのコラボレーションや、「勉強中」「運動後」「眠くなりにくい」等、目的別のおすすめ食事内容を発信してはどうか。 ・食に関する取り組みは、市の他部署でも実施していると思うので、他課と連携して実施してほしい。

保健予防費に関する改善プログラム【議論のポイント1 効果的な周知・啓発方法について】

評価結果を踏まえた事業所管課の改善の方向性

市民一人ひとりが望ましい栄養摂取・食生活を実践しやすくなるよう、SNS等の発信内容及び周知方法を見直します。

改善プログラム

No	取り組み内容	目標			実施結果		
		指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)	実績値 (時点)	実施内容 (2025年度)	実施内容 (2026年度)
1	【SNSの発信内容の見直し】 閲覧者がどのような情報が記載されているのか一目見てわかるように、表紙(画像)やキャプション(本文)を工夫する。	SNSの 発信内容 の見直し	未実施 (2024 年11月)	実施 (2025 年3月)	実施 (2025 年1月) 【改善済】	・2025年1月配信から、Instagram及びXの表紙の文字数を精査し、内容が一目でわかるように見直した。 ・興味関心をもってもらえるように、4コマ漫画風の構成記事や6件のレシピ動画をInstagram及びXで投稿した。 ・2026年度も引き続き、分かりやすいSNS投稿に取り組む。	
2	【「まち☆ベジーズ」を活用した新たな方法での情報発信】 「まち☆ベジーズ」※を活用し、「食を学べるすごろく」を作成するなど、親しみやすい情報発信により、食育の普及・啓発を進める。 ※「まち☆ベジーズ」:市内で収穫される農作物がモチーフのキャラクター	「まち☆ベジーズ」を活用した新たな取組件数	— (2025 年3月)	2件 (2026 年3月)	3件 (2026 年3月) 【改善済】	「まち☆ベジーズ」を活用した食育の普及・啓発の取り組みについては、以下のとおり。 ・「食育すごろく」を作成し、東京家政学院大学が主催する近隣小学校向けの食育調理教室において、作成したすごろくを活用した。 ・「まち☆ベジーズ」が登場する4コマ漫画風の構成で、SNSに記事を投稿した。 ・町田市立中学校給食センターの配送トラックに「まち☆ベジーズ」のラッピングを実施した。 ・2026年度も引き続き「まち☆ベジーズ」を活用した情報発信により、食育の普及・啓発を進める。	



保健予防費に関する改善プログラム【議論のポイント1 効果的な周知・啓発方法について】

改善プログラム							
No	取り組み内容	目標			実施結果		
		指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)	実績値 (時点)	実施内容 (2025年度)	実施内容 (2026年度)
3	【高校生・大学生等の若い世代と連携した食育の情報発信】 若い世代にも興味・関心を持ってもらうため、学生や高校、大学と連携し、食育に関する情報発信を行う。	高校生や大学生等の若い世代と連携した取組件数	1件 (2025年3月)	延べ3件 (2026年3月)	延べ3件 (2025年10月) 【改善済】	・市と東京家政学院大学は、8月1日に連携協定を締結した。協定締結後は、学食及び大学学園祭にて「まちだすい」とん」を提供し、食育の普及啓発をした。 ・管理栄養士実習生と連携し、若い世代にも関心を持ってもらえるようなSNSを作成し、市のInstagram及びXと学校のInstagramで発信した。 ・2026年度も引き続き高校生・大学生等の若い世代と連携し、食育に関する情報発信を行う。	

保健予防費に関する改善プログラム【議論のポイント2 若者・無関心層に向けた効果的な推進方法について】

評価結果を踏まえた事業所管課の改善の方向性

若者や無関心層に対して食育の意識変容を促すために、民間企業や他部署との連携を強化し、「食体験」ができる環境を充実させていきます。

改善プログラム							
No	取り組み内容	目標			実施結果		
		指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)	実績値 (時点)	実施内容 (2025年度)	実施内容 (2026年度)
1	【民間企業と連携した食育の推進】 若者や無関心層に対して食育の意識変容を促すために、民間企業との連携を強化し、効果的な推進方法を検討し取り組む。	民間企業と連携した取組の実施	調整 (2025年3月)	実施 (2026年3月)	実施 (2026年1月) 【改善済】	・市と味の素株式会社は2026年1月26日に連携協定を締結した。 両社は、効果的な推進方法を検討し、若い世代の野菜摂取量の増加に着目したレシピブックを作成し、市民への普及啓発に取り組んだ。 ・JA町田市と連携し、小学生の親子を対象とした収穫体験や調理実習などを行う食体験事業を実施した。双方のホームページ等で参加者の募集や業のPRを行った。 ・2026年度も引き続き民間企業と連携した食育の推進に取り組む。	

保健予防費に関する改善プログラム【議論のポイント2 若者・無関心層に向けた効果的な推進方法について】

改善プログラム

No	取り組み内容	目標			実施結果		
		指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)	実績値 (時点)	実施内容 (2025年度)	実施内容 (2026年度)
2	【庁内各課と連携した食育の推進】 市民の食育への関心を高め、行動変容を促すため、庁内の関係各課と連携し、食育の推進に向け、組織横断的な取り組みを行う。	庁内各課と連携した取組件数	4件 (2025年3月)	5件 (2026年3月)	6件 (2025年12月) 【改善済】	「まち☆ベジーズ」を活用した食育の普及・啓発の取り組みについては、以下のとおり。 ・「食育すごろく」を作成し、東京家政学院大学が主催する近隣小学校向けの食育調理教室において、作成したすごろくを活用した。 ・「まち☆ベジーズ」が登場する4コマ漫画風の構成で、SNSに記事を投稿した。 ・町田市立中学校給食センターの配送トラックに「まち☆ベジーズ」のラッピングを施した。【再掲】 ・食体験事業では、保健給食課と連携し、小学校給食で提供した「FC町田ゼルビア給食」の調理実習や保健給食課職員による食育の講話等を実施した。 ・2026年度も引き続き庁内各課と連携した食育の推進に取り組む。	
3	【目的別おすすめレシピの周知】 無関心層に対して、「食育」に対するハードルを下げ、興味・関心を高めるために、手軽でバランスの取れた食事や勉強中、運動後など目的別におすすめレシピ等の周知を行う。	目的別おすすめレシピの周知	未実施 (2025年3月)	実施 3種類 (2026年3月)	実施 3種類 (2026年3月) 【改善済】	・5月「素敵にダイエット」誤ったダイエット方法への警鐘、正しい知識、ダイエットレシピを3回に分けてInstagram及びXで投稿した。レシピは保健所栄養士が考案し、動画で公開した。 ・11月「部活(スポーツ)を頑張る人のための食事」日々のコンディションの整え方や試合で力が出せるお弁当についてInstagram及びXで投稿した。 ・1月「受験生のための食事」受験前の体調の整え方や食事についてInstagram及びXで投稿した。	